

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

実行可能性調査（FS）評価結果（公表用／ハード分野）

番号	FS研究名	研究代表者	評価
28-9	市町村のニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発	愛媛大学 教授 氏家 勲	B
<p><研究の概要></p> <p>市町村の橋梁点検において、狭小橋梁の点検に伴う通行規制、および点検時の損傷見落とし等が課題となっている。本研究ではこれら課題の解決のため、通行規制を伴わない近接装置および点検支援システムを開発し、狭小橋梁の点検の迅速化、高精度化を同時に達成することを目指す。</p> <p><FS評価></p> <p>FS研究により成果の見通しを一定程度示すとともに、研究結果を踏まえた研究計画を示していることから、新規研究として採択することが妥当と評価する。なお、実施にあたっては、指摘事項に留意するとともに、市町村職員が使えるシステムとなるよう十分に配慮して進めていただきたい。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 従来の点検方法と比べて、どれだけのコスト削減が見込まれるかを検証する必要がある。 2. 人工知能ベース損傷評価支援システム及び橋梁三次元マッピングシステムについて、システムの原理や精度などを分かりやすく整理していただきたい。 3. 人工知能ベース損傷評価支援システム及び橋梁三次元マッピングシステムについて市町村職員が理解して実際に現場で使えるようにまとめる必要がある。 4. 人工知能ベース損傷評価支援システムに用いる実データとして、使用材料などの地方性を意識して収集していただきたい。 5. 橋梁三次元マッピングシステムについて、実際に市町村職員による実証を行っていただきたい。 6. 研究成果を円滑に実装に結び付ける観点から、現行法令等に基づく道路橋の点検・診断・記録のプロセスの中で、本技術がどのように活用できるのかを明確にした上で、研究すべき事項を設定する必要がある。 			

※本FS評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第31回新道路技術会議において審議したものである。